

近年の脳卒中急性期診療の主な進歩(案)

近年の脳卒中急性期診療の主な進歩(案)

- 脳梗塞に対するtPA療法施行可能時間の延長 (3時間から4.5時間へ)
(2012年)
- 脳梗塞に対する急性期血管内治療の科学的根拠の確立 (2014～2015年)
 - ・発症後8時間以内の患者に対しては、血管内治療による血栓除去術を考慮する
- 日本脳卒中学会 脳卒中ガイドライン委員会 『脳卒中治療ガイドライン 2015』の出版 (2015)
 - ・「地域連携」の項の追加 (市民啓発、病院前救護、遠隔医療システム、病院間搬送、地域連携パス等) 等

○脳卒中の急性期治療において適応が拡大していることをふまえながら、急性期診療提供体制について議論する必要があるのではないか。